

令和8年度～令和17年度
さとうきび増産に向けた取組目標及び取組計画（3期）

与那国島

策定主体：与那国島さとうきび増産プロジェクト会議

地域において目指す姿

与那国島は沖縄本島的那覇から南西へ509km、西側の台湾から111kmの位置にあり、日本最西端の島である。島の周囲は27.5km、面積28.8k㎡、人口は1,700人となっている。

気象条件は、亜熱帯海洋性気候に属し、平均気温23.6度、年間降水量2,363.5mm（平年値1,970～2,000）となっている。

産業別就業構造は第1次産業が15.6%、第2次産業21.2%、第3次産業63.2%となっている。

農業算出額は29.3千万円（H26）でそのうち肉用牛が14千万、さとうきびが8千万となっている。

- ・新規就農者、認定農業者の育成
- ・機械士会との連携を含めた受託組織の育成
- ・生産組合と受託組織の共同農作業体系による作業効率の向上
- ・機械化一貫作業の推進
- ・農業機械導入による作業効率の向上
- ・与那国町さとうきび生産振興対策室を立ち上げ、将来的には、与那国町農畜産業振興センターを設立する。

上記の取組によってさとうきび、野菜、畜産等一次産業全般の振興を図る。

（参考情報）

【与那国町】

- ・干ばつ対策事業（事業費：1,000千円）：かん水作業に対して2／3補助。
- ・夏植え奨励事業（事業費：5,900千円）：今期の夏植え新植に対して利用する肥料及び農薬の全額助成（3袋/10a）。
- ・植付機械導入事業（事業費：6,350千円）：ピレットプランタ・全茎プランタの導入。（令和6年度）
- ・防除用機器導入事業（事業費：7,370千円）：ハイクリブームスプレイヤの導入。（令和6年度）

増産計画目標

(1) 生産目標

	収穫面積 (ha)				単収 (t/10a)				生産量 (t)				
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	平均	夏植	春植	株出	合計	
R6年産策定時	22	0	63	85	6.1	2.2	4	4.1	1,362	8	2,567	3,938	
R8年産	目標	20	5	50	75	5	3.8	4	4.3	1,000	190	2,000	3,190
R9年産	目標	20	5	50	75	5	3.8	4	4.3	1,000	190	2,000	3,190
R10年産	目標	25	5	55	85	5	4	5	4.7	1,250	200	2,750	4,200
R17年産	目標	30	5	55	90	6.5	5	5	5.5	1,950	250	2,750	4,950

(2) 担い手育成目標

	区分	区分		
		認定農業者	受託組織	大規模生産農家
R6年度策定時		0	4	2
R8年度	目標	5	4	2
R9年度	目標	5	5	3
R10年度	目標	10	5	3
R17年度	目標	10	6	4

(3) その他地域で独自に設定する目標

	ビレットプランター-の普及率	全茎プランター-の普及率	ブームスプレイヤーの普及率	ハーベスターの普及率	
R6年度策定時	20%	40%	10%	80%	
R8年度	目標	25%	45%	15%	85%
R9年度	目標	30%	50%	20%	85%
R10年度	目標	30%	55%	25%	85%
R17年度	目標	40%	70%	50%	90%

(4) 分析と評価

① 2期計画で挙げた課題

- ・「さとうきび栽培指針」の遵守励行を図り、基本的な栽培技術の徹底普及。
- ・緑肥作物栽培で畑地へ有機物の還元を図ることにより、土作りによる単収向上を図る。
- ・中核的な担い手農家の育成。
- ・生産法人の育成。

② ①で挙げた課題に対して解決に向け取り組んだ内容

- ・機械化の促進及び担い手農家、生産法人の育成による規模拡大の推進。
- ・「さとうきびの日」関連行事として関係機関と連携し、株出管理等の管理作業の普及・導入。
- ・農業用水源の確保、かんがい施設、ほ場整備、生産基盤の整備。
- ・品質や生産性の向上に向けた、早期高糖性及び耐風性に優れた奨励品種の普及・導入。
- ・返済制度、収入保険制度への加入促進

③ ①で挙げた課題のうち②により解決した課題

- ・田ばつ対策用の散水車等の確保。
- ・機械化一貫作業体系の推進。

④ ①で挙げた課題のうち解決できなかった課題とその要因

- ・農作業受託を担う組織の育成。
- ・単収向上のための適期肥培管理
- ・耐風性、早期高糖、安定多収、株出萌芽性の良い品種への更新。
- ・畜機物の畑への投入。

⑤ 新たに生じた課題

- ・増産に向けた遊休農地の解消及び耕作放棄対策を推進。
- ・増産に向けた事業実施
- ・増産に対する工場運営の対処。
- ・困産農家の肥培管理等に対する意識の低下

⑥ 令和17年産目標に向けた現状評価及び見通し

- 大規模生産農家の離農や高齢化に伴う担い手の経営面積の減少が課題となっているため生産量については減少の方向で検討し、経営面積を拡大できるように働きかけ、農地中間管理機構などの制度を活用し担い手農家への農地集積を図り作業の効率化、単収向上を目指す。
- ・地域の中核的な担い手となる認定農業者・農業法人の育成と農業機械等の導入を含めた生産基盤の強化等の支援
 - ・地域の単収向上及び品質向上目指した栽培技術支援並びに生産コストの低減化
 - ・適期植付作業の効率化に向けた受託作業体制の検討

(5) 地域重点事項（地域独自で取り組んでいる重点事項を記載）

- ・与那国町農畜産業振興センター（仮称）の設立。
- 与那国町さとうきび生産振興対策室を立上げ、将来的には、与那国町農畜産業振興センターを設立し、さとうきび、野菜、畜産等一次産業全般の振興を図る。
- ・農業機械を導入し、作業効率の向上を図る。

(6) 以下の項目のうち重要（特に議論すべき）と考える項目を3つ程度選択して✓を入れて下さい。

1 経営基盤の強化

- 農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保
- 農業共済制度への加入促進

2 生産基盤の強化

- 気象災害に強い生産基盤の整備
- 機械化一貫体系の確立
- 地力の増進

3 技術対策

- 病虫害防除
- 台風・干ばつ対策
- 優良品種の選択・普及

4 その他（自由記述）

※✓した項目については、OPの「～～」を作成する

目標達成に向けた取組計画

I 経営基盤の強化

① 農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保

【現状】

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

- ・1戸あたりの収穫面積は1.3haである。収穫体系は小型ハーベスタ+刈取機で機械収穫率が約37%となっている。
- ・農業法人は1法人あるが、経営基盤が弱いため、法人以外の農作業受委託は行っていない。しかしながら、生産農家の高齢化も進行しており、農作業受託できる担い手農家の育成が急務である。

<育成目標>							
	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
認定農業者	1	1	2	2	4	2	2
農業法人	1	2	3	1	2	2	2

<担い手育成状況>

	H27	R元	R4	R5	R6
担い手の数	12名	12名	12名	12名	12名
農業法人数	1	3	3	3	3
農業法人の 構成員数	3人	8人	8人	8人	8人
農業法人面積	11ha	16ha	16ha	16ha	16ha

<作業受託組織の受託業務>

- ・植え付け・株揃え
- ・耕起、碎土、薬剤散布
- ・刈り取り

<人材確保の方法>

- ・オペレータ会議を開催し、受託者を公募。
- ・3法人7個人

<作業受委託の調整の仕組み>

J A製糖課において、各農家の申し込み窓口代行を行っている。
(受付～調整～料金収受)

【課題】

- ・担い手の確保。
- ・認定農業者等の育成及び支援。
- ・受託組織数の不足と機械化の遅れ
- ・農家の生産意欲の低下

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・ 困とうきび増産に向けたオペレータ会議の実施。（与那国町、JA、県）
- ・ オペレータ会議を開催し、受託者を公募。（与那国町）
- ・ 地域計画の策定（与那国町）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・ 生産組合等を中核とした、受託組織の育成並びに機械化一貫体系の整備を図る。
- ・ 新規就農者及び認定農業者の育成を図る。
- ・ 講演会、展示圃の設置等により農家の生産意欲向上に取り組む。

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・ 地域計画に基づき、農地中間管理機構等の制度を活用し、担い手農家の育成及び農地集積を図る。
- ・ 中核的な担い手の育成強化及び法人の組織強化に取り組む。
- ・ 工場操業に関する問題点の洗い出しにより、増産に向けた体制を構築する。

R12目標値：認定農業者2戸、農業法人2法人

【自由記述欄】※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

Ⅰ 経営基盤の強化

② 農業保険の加入促進

【現状】

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

- ・ 兼業農家が多く、共済掛金の負担過重感があることで加入率が低い。
- ・ 無事故の場合、共済掛金が掛捨てになるため、加入への抵抗感がある。
- ・ 単収が低く、基準収穫量が低いため、被害と認定されにくい。

<畑作物共済加入目標>

項目	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
戸数(戸)	71	80	80	90	60	60	60	60	60	66
面積(ha)	89	90	90	100	100	100	100	100	100	100
面積加入率(%)	68	70	70	80	90	90	90	90	90	90

<畑作物共済加入状況>

	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
加入戸数(戸)	29	23	18	18	16	14	15	13	22
戸数引受率(%)	48	32	25	27	29.6	23	28	24.1	42
引受面積(ha)	51	33	31	28	28.2	15	27	32	48
面積引受率(%)	48	30	29	28	26.9	15	29	27.5	38
共済金額(千円)	20,212	14,114	12,103	12,256	14,377	15,333	1,568	195	129

【課題】

- ・小規模農家の加入率が低い
- ・共済制度の加入説明会及び加入促進の強化が必要。
- ・農業共済加入促進に係る関係機関の連携強化

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・さとうきび共済制度の説明会(農業共済、与那国町)

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・植付等意向調査時に農業共済制度について説明をする
- ・役場、JA、農業共済組合で連携して共済加入の推進を図る

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・加入促進のため青色申告の支援
 - ・継続的な農業共済制度の周知及び啓発。
- R12目標値：畑作物共済面積加入率 90%

【自由記述欄】※例) 国補正事業(生産対策)のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

2 生産基盤の強化

① 気象災害に強い生産基盤の整備

【現状】

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

土地基盤整備率は75.7%と進んでいるが、畑地かんがい整備が5.4%、水源整備が4.7%と遅れている。

【目標】

<農業基盤整備の目標>

令和6年度の計画

- ① 土地基盤整備：80%
- ② 畑地かんがい整備：10%
- ③ 水源整備率：10%

【目標の達成状況】

<農業基盤整備の状況（H26年度）>

R6年

- | | |
|-----------------|----------|
| ① 土地基盤整備：50.0% | ・・・75.7% |
| ② 畑地かんがい整備：4.3% | ・・・5.4% |
| ③ 水源整備率：3.8% | ・・・4.7% |
| ④ 農地防風林整備：4.2% | ・・・35.8% |

【課題】

- ・ 土地改良整備事業及び畑かん整備事業の促進。
- ・ 干ばつ対策に備えた農業用水の貯水池整備

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・ 干ばつ対策会議の開催（9月）（与那国町、製糖工場、県）
- ・ 干ばつ時における散水作業の実施（製糖工場、JA）
- ・ 町防災放送による灌水及び干ばつ対策の啓発（与那国町、製糖工場、県）

【計画】

＜短期計画＞ ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・ 早期に干ばつ対策調整会議の開催（5月～6月）
- ・ 干ばつ対策における体制整備の強化

＜中・長期的な計画＞ ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・ 水源地の確保
- ・ 防風防潮林の整備及び更新

【自由記述欄】※例）国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

2 生産基盤の強化

② 機械化一貫体系の確立

【現状】

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

- ・ 生産農家の高齢化が進行している。
- ・ 地域の実態に即した小型ハーベスタの導入等による機械化体系の確立が必要である。
- ・ ハーベスタ収穫率向上やベイト剤の普及により増加した株出栽培において、株出管理機不足やオペレータとなる担い手不足から、株出管理作業の遅れを要因とした株出単収の減少が課題となっている。

<収穫機械稼働目標>

	ハーベスタ 台数	機械収穫率 (%)	収穫面積率 (%)
R元	3	40	30
R2	3	40	30
R3	4	55	50
R4	4	55	50
R5	4	70	70
R6	4	80	80

<農業機械等の稼働状況>

	ハーベスタ台数	稼働(収穫)面積率(%)
H30	2	42%
R3	4	69.8
R4	4	61.9
R5	4	87.5
R6	4	81.4

【課題】

- ・農業生産法人等の農作業受託組織における機械化一貫体系構築の推進。
- ・農業機械士の育成。
- ・因とうきび生産管理の機械化推進。

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・ビレットプランター実演会の開催(与那国町、JA、県)

【計画】

＜短期計画＞ ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・株出複合管理機の実演及び現地検討会の開催
- ・作業オペレーターの発掘及び農業機械士養成研修会の実施並びに参加
- ・作業機械（トラクター）等の導入

＜中・長期的な計画＞ ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・農作業受託組織等の機械化一貫体系構築に向けた事業実施計画及び効率的な作業受託体制の検討
 - ・トラクター（100Ps）・ハーベスター（小型）導入
- R12目標値：ハーベスター稼働台数 4台
：稼働（収穫）面積率(%) 90%

【自由記述欄】 ※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

2 生産基盤の強化

③ 地力の増進

【現状】

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

・有機物等が十分活用されていないため、ほ場までの散布体制を確立する必要がある。

・講習会や現地検討会を実施し、技術面の向上はみられるが、肥料等の価格高騰や兼業農家が大半を占めることから、肥培管理不足や適期管理ができていないなどの課題がある。

【目標】

<堆肥等投入目標>

	生産量 (t)	還元率 (%)	散布面積 (ha)
R元	300	0.8	3
R2	300	0.8	3
R3	300	0.8	3
R4	300	0.8	3
R5	300	0.8	3
R6	300	0.8	3

【課題】

- ・ 島内の耕畜連携に向けた堆肥センターの再稼働並びに運営体制の検討。
- ・ 効果的な施肥及び早期植付に向けた堆肥並びに緑肥作物等利用の啓発。

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・ 個人農家に対するバカス、葉がらのほ場への還元支援(与那国町、製糖工場)
- ・ 夏植え芽出し肥料（緩効性肥料等）実証展示ほの設置並びに調査(与那国町、製糖工場、県)
- ・ 土壌分析の実施(与那国町、製糖工場、県)

【計画】

＜短期計画＞ ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・ 島内で産出された畜産堆肥及び葉がら等の副産物を活用した堆肥生産の検討及び還元支援
- ・ 土壌分析普及・啓発

＜中・長期的な計画＞ ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・ 堆肥の利活用に向けた農家に対する実証結果の普及・啓発。
- ・ 堆肥センター再稼働に向けた運営体制等の調整並びに検討
- ・ 耕畜連携による畑地への有機物投入を推進する。

R12目標値：堆肥生産量300t、還元率0.8%、散布面積3ha

【自由記述欄】 ※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

3 技術対策

① 病虫害防除

【現状】

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

- ・ 病虫害の被害低減を図るため、適期防除を強化する必要がある。
- ・ 健全種苗の植付等栽培管理を徹底することが重要である。

【目標】

- ・ 病虫害の出現時期を的確に把握して、防除することにより、被害を最小限に止めて単収の向上を目標とする。

(H27年度 現状) → (R6年度 目標)

単収 4.6 t / 10a → 5.6 t / 10a

<イネヨトウ交信かく乱事業実施状況>		
年度	実施面積	備考
H25年度	179ha	防除普及事業
H26年度	186ha	生産安定化等支援事業

- ・ イネヨトウ防除（交信かく乱）に係るフェロモンチューブの設置による密度低減対策の実施。
- ・ 植え付け時のベイト剤の購入助成の実施。
- ・ 防災無線(島内放送)による病虫害対策の広報活動

【課題】

- ・ ベイト剤等の資材単価高騰の影響に伴う活用農家数の減少。
- ・ 一斉防除作業の実施体制構築及び強化。
- ・ 除草作業及び病害虫防除の遅れによる単収低下

【課題に対応した取組及びその実施者】

- 実施者：与那国町
- ・ 農家の防除意識向上のため防災無線等での広報
- 実施者：JA与那国支店
- ・ 農家への防除周知

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・ さとうきび生産性向上緊急対策事業（生産対策）等を活用した薬剤購入費助成の検討
- ・ 肥培管理作業（適期雑草・病害虫防除等）の徹底及び一斉防除作業の実施に向けた啓発及び検討
- ・ 防災無線（島内放送）による病害虫対策の広報

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・ 一斉共同防除の実施
- ・ 町、農家、JA,関係機関合同による圃場パトロール

【自由記述欄】※例）国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

3 技術対策

② 台風・干ばつ対策

【現状】

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

土地基盤整備率は75.7%と進んでいるが、畑地かんがい整備が5.4%、水源整備が4.7%と遅れている。

【目標】

<農業基盤整備の目標>

平成28年度～平成32年度までの計画

- ① 土地基盤整備：85.0%
- ② 畑地かんがい整備：9.3%
- ③ 水源整備率：5.0%
- ④ 農地防風林整備：10.0ha

【目標の達成状況】

<農業基盤整備の状況（H26年度）>	R6年
① 土地基盤整備：50.0%	・・・75.7%
② 畑地かんがい整備：4.3%	・・・5.4%
③ 水源整備率：3.8%	・・・4.7%
④ 農地防風林整備：4.2ha	・・・35.8%

【課題】

- ・ 防風林の維持・管理が不十分である。
- ・ 防風防潮林の整備促進、育樹等管理作業の重要性に関する普及啓発
- ・ 干ばつ要件発生時の事業活用による生産回復を行う

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・ 干ばつ対策会議の開催（9月）及び干ばつ時の散水活動の実施。（与那国町、製糖工場、県等）
- ・ 令和6年度に与那国町において防風林の日関連行事を開催し、防災農業に対する普及啓発活動を行った。（与那国町、県等）

【計画】

＜短期計画＞ ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・ 干ばつ対策調整会議の早期開催及び対策体制強化

＜中・長期的な計画＞ ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・ 防風防潮林の整備、育樹の重要性に関する普及啓発を実施する。

【自由記述欄】※例）国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

3 技術対策

③ 優良品種の選択・普及

【現状】

- ・ 含みつ糖生産地域であるため、多収量、高糖度に加え、黒糖製品に適した優良品種の普及・導入を図る必要がある。

< 品種別作付面積 >

	Ni27	Ni15	NiF8	Ni21	Ni28	Ni26	NiH25	その他
H22	4	76	9.8	—	—	—	—	—
H28	—	54	—	7	—	20	3	22
H29	—	29	—	6	12	9	2	5
H30	—	52	0.1	2.5	5.6	4.2	34.5	7.8
R元	—	42	0.3	2.8	2.4	1.6	44.5	6.3
R2	—	51	1.3	2.4	—	1.9	32	11.9
R3	—	39	1.7	1.4	—	4.8	18.2	35.4
R4	—	42	1.6	0.7	—	6.2	18.1	33.3
R5	—	26	0.8	0.2	—	3.9	5.7	47.1
R6	35	25	—	—	—	—	—	39.4

【取組の方向】

- ・ 安定多収性品種の導入。
- ・ 県優良種苗安定確保事業の実施の継続。
- ・ 適地栽培品種の現地検討会の実施。

【目標】

< 品種構成目標 >

年度	Ni15	Ni22	Ni25	Ni27	その他
R2	30%	30%	30%	0%	10%
R6	26%	5%	6%	30%	33%
R7	25%	10%	5%	35%	25%

これまで、農林15号を中心に品種構成を保ってきたが今後の優良種安定確保の状況からNi27及び新品種の普及に努める。

【課題】

- ・ 優良品種の選定作業（調整会議等）
- ・ 農家自家種苗の品種確認作業及び台帳作成業務。
- ・ 農家への県優良種苗安定確保事業（採苗ほ設置）の周知。

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・ 優良種苗安定確保事業（採苗ほ設置）（与那国町、県）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・ 県優良種苗安定確保事業の実施の継続。
- ・ 適地栽培品種の現地検討会の実施

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・ 品種構成の適正化を図る。
- ・ 安定多収性及び黒糖品質向上を目指した優良品種の導入

【自由記述欄】※例）国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイディア要望等

—

重点課題における関係者の役割分担と実施状況

※令和7年度に3期目計画を立てる際は、右側の「今年度の具体的な取組計画」のみ記入。

重点項目：農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保

機関名	前年度の取組について			取組の反省点・改善すべき点	今年度の具体的な取組計画	
	具体的な取組内容	設定した目標	自己評価		具体的な取組内容	設定する目標
与那国町					地域計画の推進	農地中間管理機構による農地の集積
普及センター					農家の巡回指導を行い肥培管理を行う	特に株出し管理から夏植えの更新するよう指導する
JA					農家の巡回指導を行い肥培管理を行う	特に株出し管理から夏植えの更新するよう指導する
与那国製糖工場					肥培管理の徹底指導	担い手確保

重点項目：機械化一貫体系の確立

機関名	前年度の取組について			取組の反省点・改善すべき点	今年度の具体的な取組計画	
	具体的な取組内容	設定した目標	自己評価		具体的な取組内容	設定する目標
与那国町					スマート農業の確立	受託組織の育成
普及センター					認定農業者の支援	機械化に関する事業の推進
JA					農業法人の支援	農業法人に対する経営支援
与那国製糖工場					機械化推進の指導	機械の普及

重点項目：地力の増進

機関名	前年度の取組について			取組の反省点・改善すべき点	今年度の具体的な取組計画	
	具体的な取組内容	設定した目標	自己評価		具体的な取組内容	設定する目標
与那国町					堆肥・緑肥の施肥	環境負担軽減
普及センター					耕畜連携を行い堆肥生産体制の支援	畜産農家との連携
JA					耕畜連携を行い堆肥生産体制の支援	畜産農家との連携
与那国製糖工場					適宜な肥培管理	勉強会の開催 組合員への周知

さとうきび関係事業の活用実績（R7年度～）

【国補正事業（生産対策）】

（千円）

事業年度	取組内容	計画額	うち補助金	実績額
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

【セーフティネット事業】

事業年度	取組内容	計画額	うち補助金	実績額
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

【実証・研究事業（国事業・県事業）】

事業年度	事業名	取組内容	総事業費	補助金	その他
—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—

【機械導入（国事業・県事業）】

（千円）

事業年度	事業名	導入機械	総事業費	補助金	その他
—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—

【市町村単独事業】

事業年度	市町村名	事業名	取組内容	予算額	実績額
—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—

(参考情報①)

1. 県(島)の概況、農業・さとうきび作の位置づけ等

与那国島は沖縄本島的那覇から南西へ509km、西側の台湾から111kmの位置にあり、日本最西端の島である。島の周囲は27.5km、面積28.8k㎡、人口は1,700人となっている。

気象条件は、亜熱帯海洋性気候に属し、平均気温23.6度、年間降水量2,363.5mm(平年値1,970~2,000)となっている。

産業別就業構造は第1次産業が15.6%、第2次産業21.2%、第3次産業63.2%となっている。

農業算出額は29.3千万円(H26)でそのうち肉用牛が14千万、さとうきびが8千万となっている。

2. さとうきび生産の現状

生産の現状
令和6/7年期のさとうきび生産目標は6,300トンであったが、実際の生産量は3,937トンにとどまり、目標に対して62.4%と下回る結果となった。
下回った要因としては、大規模生産農家の離農や高齢化に伴う担い手の経営面積減少、肥料並びに農薬等の物価高騰に伴う負担の増加や適切な時期における管理作業不足、植付等を含めた管理作業を行う受託組織や農業機械の不足等があげられる。

【近年の作物別作付面積の動向】

(1) 作物別作付け面積の動向

	耕地面積	作付面積	耕作放棄地	さとうきび	かんしょ	水稻	野菜	飼料作物	その他
H17	668	323	225	240	-	80	2	-	345
H18	668	313	235	230	-	80	2	-	355
H19	668	303	235	220	-	80	2	-	365
H20	668	303	235	220	-	80	2	-	365
H21	665	293	252	210	-	8	2	-	372
H22	663	286	257	210	-	73	2	-	377
H23	606	286	200	210	-	73	2	-	320
H24	548	278	150	200	-	73	4	-	270
H25	548	268	160	190	-	73	4	-	280
H26	547	258	169	180	-	73	4	-	289
H27	540	237	183	180	-	52	4	-	303
H28	540	233	187	180	-	48	4	-	307
H29	520	230	170	185	-	40	4	-	290
H30	527	235	170	190	-	40	4	-	292
R元	525	223	170	190	-	28	4	-	302
R2	525	203	175	185	-	10	2	-	300
R3	537	223	194	187	-	6	14	-	300
R4	524	267	193	168	-	7	9	-	207
R5	473	303	209	147	-	6	11	-	170
R6	473	303	209	147	-	6	11	-	170

(2) さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移

	収穫面積 (ha)				単収 (t/10a)				生産量 (t)				糖度
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	
H17	68	3	16	87	52.339	48.462	30,064	48.189	3,580	126	472	4,178	12.90
H18	75	12	16	103	53.846	35,530	43,852	50,083	4,028	441	710	5,179	14.40
H19	103	14	25	142	57,593	25,486	31,542	47,124	3,797	356	785	4,938	11.20
H20	71	12	6	89	40,356	17,687	41,387	37,344	2,859	215	261	3,335	13.50
H21	66	4	20	90	58,524	10,961	36,665	51,650	3,880	42	737	4,659	14.30
H22	55	26	22	103	61,881	28,419	36,482	48,110	3,385	725	788	4,898	11.60
H23	50	13	25	88	42,537	29,514	40,813	40,084	2,118	391	1,000	3,509	12.00
H24	48	5	36	89	48,257	25,811	32,742	40,657	2,316	139	1,178	3,633	13.20
H25	48	3	32	83	56,040	18,860	29,610	44,590	2,695	51	950	3,696	13.40
H26	61	3	36	100	44,963	26,152	28,038	38,625	2,828	86	1,047	3,961	12.20
H27	63	15	49	127	57,750	33,800	40,520	48,310	3,644	497	1,994	6,135	11.80
H28	43	1	68	112	49,130	38,970	26,340	35,170	2,108	29	1,794	3,931	12.70
H29	44	0	63	107	62,000	-	28,038	31,320	2,739	0	1,996	4,704	12.80
H30	63	1	43	107	66,860	61,240	50,200	60,050	4,200	60	2,185	6,445	13.10
R元	46	0	62	108	51,390	0	31,330	39,840	2,384	0	1,943	4,327	13.20
R2	30	2	68	100	43,360	39,010	44.82	44,250	1,320	85	3,055	4,460	12.80
R3	43	0.07	61.71	105	73,830	36,030	46,620	57,800	3,184	2	2,877	6,063	12.70
R4	30	-	72.3	102	40.8	-	31.8	34.4	1,228	-	2,295	3,523	11.80
R5	26	4.7	53.3	83.7	54.5	48.0	41.0	46.0	1,399	205	2,265	3,869	14.20
R6	22.3	0.37	63.58	86.3	6.1	2.2	4.0	4.6	1,362	8	2,567	3,937	12.80

(参考情報②)

【年齢階層別農家戸数】

	29歳以下	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	合計
H17	-	-	-	-	-	-	0
H18	-	-	-	-	-	-	0
H19	8	18	20	35	21	-	102
H20	8	17	19	32	26	-	102
H21	-	7	9	14	20	-	50
H22	-	3	6	11	15	-	35
H23	-	7	7	15	21	-	50
H24	1	8	15	28	35	-	87
H25	-	7	8	19	36	-	70
H26	1	9	14	10	27	-	61
H27	1	9	14	10	27	-	61
H28	1	9	14	10	30	-	64
H29	1	9	14	11	31	-	66
H30	1	11	13	13	30	-	68
R元	1	9	15	12	32	-	69
R2	-	4	8	11	43	-	66
R3	-	2	4	10	38	-	54
R4	-	1	6	8	41	-	56
R5	1	1	5	7	37	-	51
R6	1	1	5	7	37	-	51

【経営（収穫）規模別農家戸数】

	100a未満	100~300a 未満	300~500a 未満	500a以上	合計
H17	47	26	0	4	77
H18	50	19	4	4	77
H19	50	19	4	4	77
H20	46	19	7	4	76
H21	34	18	3	6	61
H22	45	20	4	3	72
H23	41	25	3	9	78
H24	44	22	5	2	73
H25	52	16	4	6	78
H26	41	25	3	9	78
H27	39	22	5	3	69
H28	39	22	5	3	69
H29	27	23	5	6	61
H30	26	32	6	8	72
R元	26	32	6	8	72
R2	24	27	8	7	66
R3	15	30	4	5	54
R4	24	20	9	3	56
R5	25	20	5	3	53
R6	25	20	5	3	53

【製糖工場の操業状況】

	操業率 (%)	操業期間 (日)	歩留 (%)	トラッシュ率 (%)
H17	41.78	46	12.04	8.93
H18	51.79	61	12.9	8.9
H19	49.38	52	10.86	7.98
H20	33.35	42	13.12	11.94
H21	46.59	65	12.6	9.66
H22	48.98	50	11.73	6.94
H23	35.09	56	11.39	8.69
H24	36.33	50	12.39	8.61
H25	36.97	63	12.53	8.75
H26	39.60	62	10.78	8.45
H27	70.00	130	10.71	8.80
H28	92.50	94	10.70	11.55
H29	84.90	90	11.52	9.73
H30	68.90	164	11.06	7.90
R元	82.41	105	10.91	11.0
R2	87.44	102	10.93	8.39
R3	98.56	123	8.81	8.65
R4	85.93	82	8.88	6.0
R5	93.23	83	11.86	13.0
R6	77	104	11.18	13.7

(参考情報③)

【作業受託組織の状況】

	農作業受託組織数			農作業受託調整組織の有無と役割		
	合計	組織	個人	有無	名称	役割
R7	4	4	-	無	-	-

【作業委託料金】

作業名	料金	料金の設定方法及び島内の料金体系	備考
収穫	0	-	-
植付	0	-	-
株出管理	0	-	-
防除	0	-	-
その他	0	-	-

(参考情報④)

【畑地かんがいの整備状況】

	貯水施設		畑地かんがい 整備率	かん水方法			畑地かんがい整備の現状と 整備率向上に向けた今後の取組
				形態	使用料金	使用条件等	
R7	地下ダム	-	5,4%	I 型	基本料金1,000円 使用料15円/m ³	-	-
	ダム	-				-	-
	ため池	-				-	-
	その他	-				-	-

(参考情報⑤)

【共済加入目標】

	H26	R6	R7	R8	R9	R12	R17
有資格戸数	81	52	52	52	52	52	52
加入戸数	46	13	22	25	25	26	26
戸数引受率	64.8	25	42	48	48	50	50
対象面積	102.8	83.5	83.5	83.5	83.5	84	84
引受面積	41.1	31	35.5	35.5	35.5	42	42
面積引受率	40	37.1	42.5	42.5	42.5	50	50
支払金額	1,822	—	—	—	—	—	—

【収入保険制度への加入目標】

	H30	R6	R7	R8	R9	R12	R17
有資格戸数	0	0	1	3	3	3	3
加入戸数	0	0	1	3	3	3	3
引受面積	0	0	2	6	6	6	6
面積加入率	0	0	2	7	7	7	7

(参考情報⑥)

【作型別割合】

	夏植	春植	株出し
H17	78%	3%	18%
H18	73%	12%	16%
H19	73%	10%	18%
H20	80%	13%	7%
H21	73%	4%	22%
H22	53%	25%	21%
H23	57%	15%	28%
H24	54%	6%	40%
H25	58%	4%	39%
H26	61%	3%	36%
H27	50%	12%	39%
H28	38%	1%	61%
H29	41%	0%	59%
H30	59%	1%	40%
R元	43%	0%	57%
R2	30%	2%	68%
R3	41%	0%	59%
R4	29%		71%
R5	31%	6%	64%
R6	26%	0%	74%
R17(目標)	33%	60%	61%

【株出し回数別面積】

	株出し回数別面積 (ha)										平均回数	
	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回		
H17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
H18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
H19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
H20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
H22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
H23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
H24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
H25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
H26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
H27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
H28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
H29	63	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
H30	15	16	12									1.93
R元	50	6	5	2								1.35
R2	36	23	9									1.60
R3	18	24	14	3	1							2.08
R4	31	13	16	8	2		1					2.17
R5	24	11	5	10	4							2.24
R6	22	17	13	2	7	3						2.44
R17	20	15	10	10								2.18

(参考情報⑦)

【近年の品種別収穫面積の推移】

作型	夏植						春植						株出し						合計					
	Ni15	Ni22	NiH25	Ni27	RK97-14	その他	Ni15	Ni22	NiH25	Ni27	RK97-14	その他	Ni15	Ni22	NiH25	Ni27	RK97-14	その他	Ni15	Ni22	NiH25	Ni27	RK97-14	その他
H17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H29	31	-	8	-	-	5	-	-	-	-	-	-	29	1	2	3	-	28	61	1	10	3	-	32
H30	32	5	25	-	-	1	-	-	1	-	-	-	20	1	9	-	-	14	53	5	35	-	-	14
R元	18	3	18	1	3	3	-	-	-	-	-	-	24	1	26	1	-	10	42	4	44	2	3	14
R2	24	-	2	1	1	2	2	-	-	-	-	-	25	4	30	-	2	7	51	4	32	2	3	9
R3	16	-	5	7	8	7	-	-	-	-	-	-	27	4	13	3	8	7	43	4	17	10	16	15
R4	16	1	1	3	3	6	-	-	-	-	-	-	26	3	17	9	10	7	42	4	18	14	14	10
R5	5	-	-	13	4	3	-	-	-	4	-	1	21	4	5	10	9	-	26	4	6	26	13	9
R6	5	-	2	12	1	2	-	-	-	-	-	-	17	3	4	19	11	9	22	3	5	30	11	15